



生駒市立鹿ノ台小学校

鹿小だより



鹿小ホームページ

令和 7年 11月 19日

第 16 号

野外活動

11月6日(木)～7日(金)は5年生の野外活動でした。

野外炊飯でのカレーづくりも、一人ひとり役割をきちんとこなし、グループで協力して、段取りよく調理ができたので想定より早く「いただきます」ができました。夜のキャンプファイヤーの中盤に、ファイヤー場を訪ねに行くと、ファイヤー係を中心に、歌って、踊って、手を繋いで輪になって楽しく盛り上がっているところでした。音楽の授業や学級で練習した歌を、炎の明かりの中で学級のなかまと一緒に歌うことが、とてもうれしくて、楽しくて、幸せだという感情があふれていました。解散式であいさつする子の「楽しかったですか？」の問いかけに、みんな顔をあげて「はい！」と元気に返事をしていました。



野外活動は、楽しい思い出だけでなく、集団の規律を大切にし、仲間と協力することや自ら考え行動する喜びを味わい、自信を深める機会です。毎年感じるのですが、解散式での子どもたちは、疲れている中でもやり切ったという満足感や自信をにじませ、出発前よりもきりっとして感じます。「野活後の5年生は、なんだか、いっそうしっかりしてきたね」と言われるよう、期待しています。

おもちゃランド 創造力とコミュニケーション力を育む

2年生は、生活科の学習でおもちゃランドを開きました。ペットボトルや紙コップ、割り箸、段ボール箱



ピンポン玉いれ

などの身近な材料を使っておもちゃをつくり、楽しく遊べるゲームコーナーがいくつも用意されていました。まずは、1年生の子たちを招待し、遊んでもらい、参観日には保護者の方を招待する予定になっています。例年は、1年生だけでしたが、今年は参観日に保護者の方に参加してもらおうとあって、子どもたちは特に張り切っているように見えました。

身近な素材を使っているとはい

え、なかなかよくできています。「これはどんな仕組みになっているの？」と訊ねると、後ろ側を見せて解説してくれました。1年生の子たちを前に、ゲームの仕方、遊び方を説明して、それでも戸惑っている子には手を添えてやり方を補助したり、お手本を見せたりしていました。ものを作ること、順序良く説明することに加えて、人と関わるさまざまな姿が見られることも、おもちゃランドの楽しいところです。

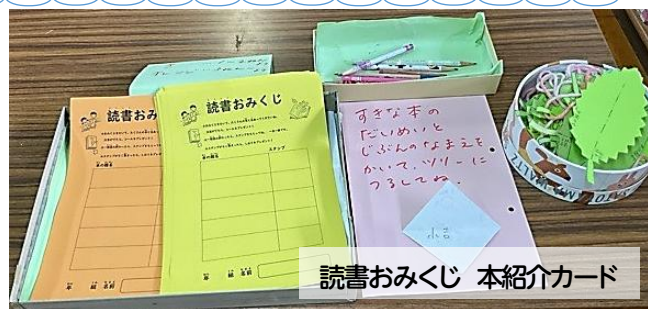


ビー玉めいろ

読書イベント たくさんの新しい本との出会いを

図書室と図書委員会では、11日から「秋の読書イベント」を始めました。イベントは、読書おみくじと本の紹介です。本の紹介は、子どもたちからも募集し、先生たちのお気に入りの本も掲示、展示されています。

おみくじには「物語」「科学の本」といった本のジャンル名が書かれたカードが挟んであり、そのジャンルの中から借りる本を選ぶことになっています。おみく



じを引いて、今までは手にしなかったジャンルの本と出合っ
てほしいとの思いがあります。たくさん読んでほしいので、5冊
読んだら手製のしおりをプレゼントする計画です。

読書週間(10月27日～11月9日)にちなみ、11月の全校朝会
では私が最近読んだ本を紹介しました。その本を校長室前に
こっそり置いています。

葉の形のカードに書いた本の紹介をツリーに飾っていきます

マフラーの着用について

これまで防寒具は、手袋、ネックウォーマーのみ認め、マフラーは安全面から禁止していました。過去
に、長いマフラーによる事故が報告されていたためです。しかし、最近は多様で安全面を考慮した型のマ
フラーも増えていることから、検討の結果、以下の条件を満たす場合に限りマフラーの着用を認めます。

○首にしっかりと収まるもの

○ひもや房が長く垂れ下がらないもの

○着用は登下校時のみ



寒くなると、ポケットに手
を入れて登下校する子が出てき
ます。こけたときに危ないです。
手が冷たいなら、手袋を使いま
しょう。



校舎内でははずし、体育や遊び時間での使用はしませんが、遊具への巻き込みや友だちが引っ張る
などの事故防止のため、マフラーに限らず、子どもたちには適切な扱い方や管理の仕方について指導し
ていきます。ご家庭でも安全な使い方について話し合っていただけると幸いです。

学校では事故やトラブルを防ぐために「禁止」というルールを設けることがありますが、時代や実情に合わ
ない決まりが「ブラック校則」として話題になることもあります。鹿ノ台小学校では、そうならないよう、毎年見
直しを行い、柔軟な運用に努めています。また、私たち教職員は、子
どもたちが安全で安心して学校生活を送れることを願うとともに、
「なぜ危ないのか」「どうすれば安全、安心につながるのか」を自分
で考え、判断できる力を育てたいと考えています。今後も学校とご
家庭で協力しながら、安全で安心な学校生活を支えていきたいと思
いますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



緊急のサイレンを鳴らしてもらいました。耳を押さえました。